

は、発見賞を贈って来たことは勿論である。大彗星とはいわれないような彗星でも、発見(観測)時刻が分刻みで、多数の発見が集まることもある。順位あらいは分刻みになる。

今までの記録では、天文台に届く新天体発見情報の数は、毎年百通を越える。中には天王星、海王星の発見はいうにおよばず、流星と彗星の混同さえある。しかし、経験の積み重ねがベテランを育て上げる。筆者個人のメモとして、オブザーバーズ・リストがあることは前述し

た。その中で、何人かが確認依頼者から発見者へと移籍している。第二次世界大戦後、本田実氏によって始まった日本人による新天体発見の活躍は、52個に達する天体発見賞で、歴史を作り上げて来たのである。この他、新天体発見賞にはならなかったが、特異な天体の発見などもある。日本天文学会の新天体発見賞が、アマチュア活動の一つの支えになっていることは、事実であり、その存在の意義は大きい。最後に、実名で登場して頂いた方々にお許しを頂くことを、心からお願いしておきたい。

お知らせ

東京天文台助手公募

東京天文台では次の通り助手(2名)を公募します。

東京天文台長 古在由秀

- (1) 所属: 岡山天体物理観測所に勤務する助手1名

仕事の内容: 光学・赤外天文学関係の観測・研究・関連機器の開発等。

着任時期: 決定後出来るだけ早い時期

応募資格: 修士以上の学位を有する者またはそれに相当する研究歴を有する者

提出書類: ○履歴書 ○研究業績目録(共著の場合は分担した役割を明記のこと) ○主要論文別刷各1 ○研究上の抱負(400字詰2枚程度) ○当方より応募者について所見を求めることの出来る方2名(所属、職、氏名、連絡先)

提出期限: 1984年10月6日(必着)

宛先および 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

連絡先: 東京大学東京天文台 北村正利
Tel: 0422-32-5111 ex. 202

その他: 封筒の表に「岡山助手応募書類在中」と朱書のこと。

- (2) 所属: 天文時部(1名)

仕事の内容: 位置天文学の観測的研究

当面はPZT(写真天頂筒)に関連した仕事をしてもらうことになります。今迄の経験は必ずしも問いませんが、光学系・検出装置・ハードとソフトのインタフェイス・PZT観測整約の吟味等に関心と意欲のある人を求めています。

着任時期: 決定後出来るだけ早い時期

応募資格: 修士課程修了相当以上

提出書類: ○履歴書 ○研究業績目録(共著の場合は分担した役割を明記のこと) ○主要論文別刷 ○研究上の抱負(400字詰2枚程度) ○応募者について当方より所見を求めることの出来る方2名の所属職・氏名・連絡先

提出期限: 1984年9月20日(必着)

宛先および 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

連絡先: 東京大学東京天文台 守山史生
Tel. 0422-32-5111 ex. 316

その他: ○封筒の表には「天文時部助手応募書類在中」と朱筆のこと ○応募書類の返送先を明記した封筒を同封のこと。

東レ科学技術賞および研究助成候補者募集

上記について東レ科学振興会より本会あて推薦依頼が来ています。希望者は10月25日までに、学会庶務理事まで御連絡下さい。募集の要項はつぎのとおりです。

科学技術賞……(1) 学術上の業績が顕著なもの (2) 学術上重要な発見をしたもの (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの (4) 技術上重要な問題を解決して技術界への貢献が大きいもの、に対し金メダルと副賞300万円。

研究助成金……科学技術の基礎的な研究に従事し、その研究成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を行なっている研究者、またはそのグループに対し総額1億円前後、1件1,000万円程度。但し、とくに重要と認められる研究については、3,000万円程度まで助成が考慮されます。

贈呈期日は両方とも昭和60年3月の予定。

訂正

(1984年8月号掲載)

1984年5月の太陽黒点(g, f) (東京天文台) の中で22日の6, 65は6, 85に訂正します。